

こくぶんけんカフェ

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館



主催：人間文化研究機構 国文学研究資料館

渋沢栄一生誕記念 「渋沢青淵翁記念実業博物館」の再現



こくぶんけんカフェとは？

当館の研究者が会話をしながら講座を行い、研究の概要に触れていただくイベントです。

第1回 2021年12月1日(水)15時00分～16時00分

講師：青木 睦(当館准教授)

会場：たましん事業支援センター【Win センター】セミナールーム

渋沢栄一生誕 1840(天保10)年 記念・1940(昭和15)年生誕100年

「渋沢青淵翁記念実業博物館」の再現

- ・ 渋沢栄一が1931(昭和6)年11月11日に死去した後、遺言によって渋沢栄一郎の寄贈を渋沢記念財団竜門社が受けました。現在の北区飛鳥山公園内にある、約8470坪ほどの敷地及び建物です。1937(昭和12)年5月、(財)竜門社は、旧渋沢栄一郎の利用に関する委員会を設置し、渋沢子爵家を栄一より継承した嫡孫の渋沢敬三ら9名に委員を委嘱します(当時、敬三は(財)竜門社の評議員)。そして、この委員会は答申を提出し、同年7月15日に財団の理事会・評議員会において、「渋沢青淵翁記念実業博物館」の建設が決議されます。この決議された計画案は、渋沢敬三の「一つの提案」をベースにしたものでした。



明治三十七年株式會社第一銀行發行之壹圓券



(81)
明治三十七年株式會社第一銀行發行之壹圓券 (表面)

渋沢 栄一

西暦(和暦)	年齢	主な出来事
1840年(天保11年)	0	2月13日、武蔵国樺沢郡血洗島(現埼玉県深谷市)に生まれる
1863年(文久 3年)	23	高崎城乗っ取り、横浜焼き討ちを計画するが中止。京都へ出奔
1864年(元治元年)	24	平岡円四郎からの申し出で一橋家に仕官
1867年(慶応 3年)	27	將軍徳川慶喜の弟、昭武のフランス渡航に随行
1868年(明治元年)	28	フランスから帰国、静岡藩に仕える
1869年(明治 2年)	29	明治新政府に出仕。民部省租税正となる
1873年(明治 6年)	33	大蔵省を退官。第一国立銀行総監役に就任
1875年(明治 8年)	35	第一国立銀行頭取に就任
1876年(明治 9年)	36	東京府養育院の事務長(後に院長)に就任
1878年(明治11年)	38	東京商法会議所(のちの商工会議所)会頭に就任

嫡孫 渋沢敬三

1896年（明治29年） - 8月25日に渋沢篤二と敦子の長男として東京・深川に生まれる[10]。

渋沢栄一 56歳

1909年(明治42年)	69	金融業以外の事業会社(約60社)の役員を辞任。 渡米実業団団長として渡米
1916年(大正 5年)	76	実業界を引退
1925年(大正14年)	85	『論語講義』を刊行
1926年(大正15年)	86	ノーベル平和賞候補になる(翌年も)
1931年(昭和 6年)	91	11月11日永眠

嫡孫 渋沢敬三 35歳

1896年（明治29年） - 8月25日に渋沢篤二と敦子の長男として東京・深川に生まれる[10]。
1900年（明治33年） - 祖父の渋沢栄一が男爵に叙される。
1909年（明治42年） - 東京高等師範学校附属小学校（現・筑波大学附属小学校）を卒業。東京高等師範学校附属中学校（現・筑波大学附属中学校・高等学校）入学。深川でベストが流行ったため、三田に転居[11]。
1913年（大正2年） - 渋沢家の嫡男である父・篤二が病気の為に廃嫡。祖父の栄一は敬三を後継者に指名。
1914年（大正3年） - 柳田國男と初めて出会う。
1915年（大正4年） - 4月に東京高等師範学校附属中学校を卒業すると同時に、滋澤同族株式会社が設立され同社の社長となる。7月には仙台の第二高等学校試験に合格し、9月に同校に入学する。
1918年（大正7年） - 7月第二高等学校卒業し、9月に東京帝国大学法科大学経済学科入学。
1920年（大正9年） - 渋沢栄一、子爵に陞爵。
1921年（大正10年） - 「アチック・ミュージアム（屋根裏博物館）」をつくる。東京帝国大学経済学部（1919年に、学部制導入時に法学部から分離独立）を卒業し、横浜正金銀行に入行。
1922年（大正11年） - 岩崎弥太郎の孫・木内登喜子と結婚。ロンドン支店勤務を命ぜられ、渡英。
1925年（大正14年） - 長男雅英（渋沢栄一記念財団理事長）誕生。栄一の体調おもわしくなく、帰国[11]。
1926年（昭和元年） - 横浜正金銀行を退職し、第一銀行取締役、滋澤倉庫取締役に就任。
1930年（昭和5年） - 長女紀子（佐々木繁弥と結婚）誕生。
1931年（昭和6年） - 祖父栄一死去にともない子爵を襲爵。
1933年（昭和8年） - 次女黎子（服部勉と結婚）誕生。
1934年（昭和9年） - 日本民族学会を設立し、理事となる。
1937年（昭和12年） - 保谷に民族学博物館を開設し、アチック・ミュージアムの資料を移管する。
1941年（昭和16年） - 第一銀行副頭取就任。
1942年（昭和17年） - 日本銀行副総裁就任。
1944年（昭和19年） - 日本銀行総裁就任。
1945年（昭和20年） - 3月17日、貴族院議員就任[12]（1946年6月10日辞任[13]）。空襲により三田の自邸一部焼失。幣原内閣の大蔵大臣に就任し日本銀行総裁辞任。
1946年（昭和21年） - 預金封鎖、新円切り替え実施。内閣総辞職により蔵相辞任。高松宮家財政顧問となる。滋澤同族株式会社が財閥解体の持株会社指定を受ける。公職追放。蔵相として自ら創設した財産税のため三田の自邸物納。
1947年（昭和22年） - 妻登喜子と別居。
1949年（昭和24年） - 水産庁に水産資料館設置を建言。
1951年（昭和26年） - 公職追放解除。経済団体連合会相談役に就任。
1953年（昭和28年） - 国際電信電話（KDD）設立に伴い、社長に就任。十和田科学博物館開設。
1955年（昭和30年） - 渋沢栄一伝記資料刊行会より『渋沢栄一伝記資料』の刊行を開始する。
1956年（昭和31年） - 文化放送会長、KDD会長、日本モンキーセンター初代会長に就任。
1957年（昭和32年） - 外務省移動大使として、中南米各国を歴訪。
1960年（昭和35年） - 旅先の熊本で倒れる。東京大学附属病院に入院、以来入退院が多くなる。
1961年（昭和36年） - 東洋大学の理事に就任。小川原湖民俗博物館開設。
1963年（昭和38年） - 朝日賞受賞。東洋大学の名誉文学博士号を授与される。文部部省史料館に寄贈した民俗資料の収蔵庫が落成。5月にその式典に出席。10月25日虎の門病院にて糖尿病と腎萎縮を併発し死去。勲一等瑞宝章を授与される。

1896年（明治29年） - 8月25日に渋谷篤二と敦子の長男として東京・深川に生まれる[10]。
1900年（明治33年） - 祖父の渋谷栄一が男爵に叙される。
1909年（明治42年） - 東京高等師範学校附属小学校（現・筑波大学附属小学校）を卒業。東京高等師範学校附属中学校（現・筑波大学附属中学校・高等学校）入学。深川でペストが流行ったため、三田に転居[11]。
1913年（大正2年） - 渋谷家の嫡男である父・篤二が病気の為に廃嫡。祖父の栄一は敬三を後継者に指名。
1914年（大正3年） - 柳田國男と初めて出会う。
1915年（大正4年） - 4月に東京高等師範学校附属中学校を卒業すると同時に、澁澤同族株式会社が設立され同社の社長となる。7月には仙台の第二高等学校試験に合格し、9月に同校に入学する。
1918年（大正7年） - 7月第二高等学校卒業し、9月に東京帝国大学法科大学経済学科入学。
1920年（大正9年） - 渋谷栄一、子爵に陞爵。
1921年（大正10年） - 「アチック・ミュージアム（屋根裏博物館）」をつくる。東京帝国大学経済学部（1919年に、学部制導入時に法学部から分離独立）を卒業し、横浜正金銀行に入行。
1922年（大正11年） - 岩崎弥太郎の孫・木内登喜子と結婚。ロンドン支店勤務を命ぜられ、渡英。
1925年（大正14年） - 長男雅英（渋谷栄一記念財団理事長）誕生。栄一の体調おもしろくなく、帰国[11]。
1926年（昭和元年） - 横浜正金銀行を退職し、第一銀行取締役、澁澤倉庫取締役に就任。
1930年（昭和5年） - 長女紀子（佐々木繁弥と結婚）誕生。
1931年（昭和6年） - 祖父栄一死去にともない子爵を襲爵。
1933年（昭和8年） - 次女黎子（服部勉と結婚）誕生。
1934年（昭和9年） - 日本民族学会を設立し、理事となる。
1937年（昭和12年） - 保谷に民族学博物館を開設し、アチック・ミュージアムの資料を移管する。
1941年（昭和16年） - 第一銀行副頭取就任。
1942年（昭和17年） - 日本銀行副総裁就任。
1944年（昭和19年） - 日本銀行総裁就任。
1945年（昭和20年） - 3月17日、貴族院議員就任[12]（1946年6月10日辞任[13]）。空襲により三田の自邸一部焼失。幣原内閣の大蔵大臣に就任し日本銀行総裁辞任。
1946年（昭和21年） - 預金封鎖、新円切り替え実施。内閣総辞職により蔵相辞任。高松宮家財政顧問となる。澁澤同族株式会社が財閥解体の持株会社指定を受ける。公職追放。蔵相として自ら創設した財産税のため三田の自邸物納。
1947年（昭和22年） - 妻登喜子と別居。
1949年（昭和24年） - 水産庁に水産資料館設置を進言。
1951年（昭和26年） - 公職追放解除。経済団体連合会相談役に就任。
1953年（昭和28年） - 国際電信電話（KDD）設立に伴い、社長に就任。十和田科学博物館開設。
1955年（昭和30年） - 渋谷栄一伝記資料刊行会より『渋谷栄一伝記資料』の刊行を開始する。
1956年（昭和31年） - 文化放送会長、KDD会長、日本モンキーセンター初代会長に就任。
1957年（昭和32年） - 外務省移動大使として、中南米各国を歴訪。
1960年（昭和35年） - 旅先の熊本で倒れる。東京大学附属病院に入院、以来入退院が多くなる。
1961年（昭和36年） - 東洋大学の理事に就任。小川原湖民俗博物館開設。
1963年（昭和38年） - 朝日賞受賞。東洋大学の名誉文学博士号を授与される。文部省史料館に寄贈した民俗資料の収蔵庫が落成。5月にその式典に出席。10月25日虎の門病院にて糖尿病と腎萎縮を併発し死去。勲一等瑞宝章を授与される。

2024年新札「渋沢栄一」と 1946年預金封鎖「大蔵大臣・渋沢敬三（孫）」偶然か

渋沢敬三氏は、終戦直後の幣原喜重郎内閣では大蔵大臣をつとめ、新円切替え、財産税導入など経済的混乱の收拾にあたるなど、転換期の日本経済において重要な役割を果たした。

その後公職追放の身となるが、**1951**（昭和26）年の追放解除後は、国際電信電話株式会社初代社長に就任したほか、日本経営者団体連合会常務理事、金融制度調査会会長、国際商業会議所日本国内委員会会長などを務めたが、これは当時の財界における敬三に対する信頼の厚さの表れであった。さらに外務省顧問・移動大使として中南米諸国を歴訪するなど、国際的な経済人として尽力したのであった。

昭和**21**年**2**月**16**日、戦後の急激なインフレ対策として政府は、**5**円以上の紙幣は、**3**月**2**日までしか使えません。
古い紙幣は新しい紙幣と交換して使いなさい。交換できるのは*世帯主**300**円、世帯**1**人**100**円までです。

（*現在の貨幣価値で世帯主が約12万円、世帯員が1人4万円）

そして...

その他の紙幣はすべて預金しなさい。
と、渋沢敬三蔵相（当時）はラジオ放送で演説しました。

これが「預金封鎖」です。
そして政府はこの預金に対して最大**90**%の「財産税」を徴収しました。

ホイットニー GHQ 民政局長の言葉

1945年9月。幣原は、敬三に大蔵大臣として政界に立ち戻ることを依頼した。敬三は固辞した。しかし幣原の「君以外にこの未曾有の国難を誰が越えられよう」という説得に、敬三はその任を請けた。たしかに嘗て鬼神のごとく八面六臂に働き、大恐慌時代を乗り切った敬三にしか出来ないであろう局面に日本は墜ち込んでいた。敬三の任期は半年に満たない。しかしその半年間で敬三は、膨大に積み重なった戦時国債の重圧、戦後の紙幣の暴発的な増刷に立ち向かったのである。文字通り命がけで、敬三は日本経済が崩壊を防いだのである。そして預金封鎖、新円切り替え、財産税の導入などの大鉦を続けざまに振るった。

ホイットニーがあの日(2月5日)驚嘆したのは、目の前で淡々とその“大鉦”について語る男が、その大鉦でズタズタにされるのが彼自身だったからである。ホイットニーは1月24日の幣原訪問の折にマッカサーから「自分の痛みは、自分より痛い者がいる時は、我慢できるものだ」と言われたことを知らなかった。もちろんその言葉が、敬三の耳に入ってたことも知らなかった。敬三は、自らが「生贄として弑(しい)られる」ことを覚悟していたのだ。

出典:『澁澤敬三著作集 全5巻』網野善彦・渋沢雅英・二野瓶徳夫 編 (平凡社, 1992-1993年)

『聞き書 宮沢喜一回顧録』(御厨 貴著、岩波書店、2005年)によると、大蔵省において、渋澤敬三大臣に仕える。宮沢氏は、1942年(昭和17年)1月、大蔵省に入省。沼津税務署長などを経て、終戦時には本省で戦争保険を担当していた。1945年(昭和20年)8月、東久邇宮内閣が発足すると、大平正芳とともに津島 壽一蔵相秘書官となる。1949年(昭和24年)には池田勇人蔵相秘書官として、講和条約の準備交渉に携わる。1951年(昭和26年)9月、サンフランシスコ講和会議では全権随員として参加。



星野リゾート 青森屋にあった旧渋沢邸

撮影:青木睦

財産税導入時、敬三は自ら進んで三田の豪邸を物納した。そして同敷地内にあった執事用の小さい家に居を移した。その家は三部屋しかなく、便所も汲み取り式のボロ家だった。

大蔵省の職員たちは敬三が屋敷を物納すると聞いてこぞって反対した。大蔵省で一時買い取り、あとで買い戻してはいかがですか、という助け船を出した。GHQからも例外として功労者である渋沢は財産税から外せという指示が出た。しかし敬三は、これらをすべて断った。

「いや、僕は財産税というものを考え出して皆を苦しめた。その元凶がそんなことをするわけにはいかない。僕は真っ先に献納する。」と言い張った。

そして淡々と大蔵大臣辞職。辞職後、公職追放令により全ての公職も失って凋落のどん底に落ちた。

しかし敬三は飄々と、残されたわずかな土地にキャベツやサツマイモを植え野良仕事に励んだと云う。そして時折、訪れる者があると、その手製の野菜料理でもてなしたという。その表情に悲壮感はなく実に晴れやかで、朗らかだったと伝えられている。「ニコニコしながら没落していけばいい。」彼は折に触れてそう言ったと云う。

旧渋沢邸は、渋沢敬三の秘書であった杉本行雄が陳情を重ねて払い下げを受け、1991年に青森県上北郡六戸町へ移築復原した。その後、清水建設（株）が2019年に邸を取得し、東京都江東区潮見に再築工。

文書消滅の危機と保存施設の設立



大戦中・戦災によって、あるいは物資
欠乏によって、全国各地の旧家や役
所に保存されていた膨大な古文書・
公文書史料が散逸・隠滅の危機にさ
らされ、さらに戦後の社会変動と経
済的混乱は、これら貴重な史料の散
逸・破壊に、一層拍車をかける結果
になった。そしてこれまで保存管理さ
れてきた資料群の管理がなおざりに
され、危機的状況となった。

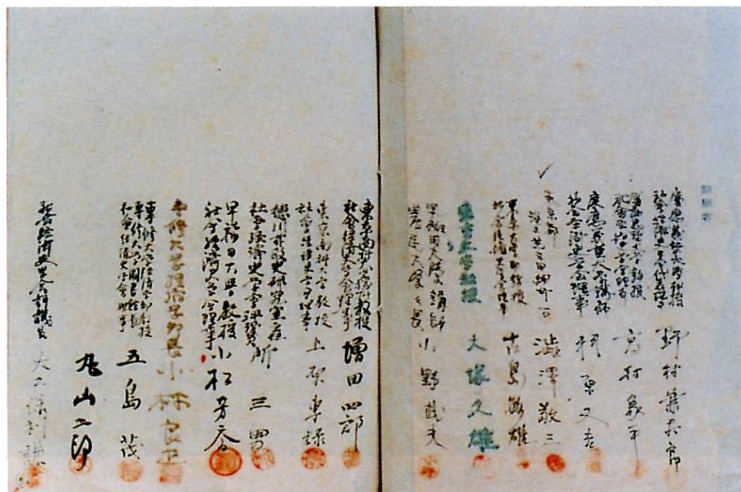
1951年 文部省史料館の発足



この状況に対して文部省は、1947年、近世以降の文書・記録類の収集事業を開始、翌年から近世庶民史料調査委員会が全国的な史料所在調査を実施した。これら収集調査史料の保存利用機関として、51年東京都品川区に文部省史料館を発足させたのである。私たちの組織の前身である。



揺籃期の史料館



1949（昭和24）年3月 史料館設置に関する請願書と署名原本（史料館所蔵）



1949年10月に史料館用施設として国が購入した三井文庫建物
（東京都品川区豊町所在）

渋沢コレクションの受け入れ経緯と 史料保存運動の歴史

1947	昭22年	文部省科学局人文科・学研究課が近世以降の古文書の収集に着手。
1948	23	近世庶民史料調査研究特別委員会による全国近世史料調査の開始。
1949	24	3月 上記の結果確認された史料を保存する専門機関をつくるため、中央・地方における「国立史料館設置に関する請願」（野村兼太郎他95人）が国会に提出、採択。
1950	25	4月 図書館法公布、施行。5月文化財保護法公布
1951	26	5月文部省史料館の設置。
		2月博物館法公布（翌年3月1日施行）。
1952	27	3月日本学術会議資料委員会を中心に学術資料保護の立法化の要望。
1956	31	1956 31 4月自治省は市町村合併によるところの行政文書の廃棄などから、「市町村の沿革の資料の収集」という通牒を出す。
1957	32	同上につき「市町村の沿革の資料整理について」が出される。
1958	33	9月日本歴史学協会（日歴協）の「国立文書館（仮称）」設立準備特別委員会から日本学術会議に「国立文書館設置の要請書」が提出される。
1959	34	11月地方史研究協議会が中心となり、日本学術会議が市町村合併に伴う諸資（史）料の散逸を憂慮し、「公文書散逸防止について」の勧告を政府に行なう。 4月1日 山口県文書館開館
1961	36	9月政府は事務次官会議で総理府に「公文書保存制度等調査連絡会議」の設置を決定。
1962	37	渋沢青淵記念財団竜門社より日本実業史博物館設立準備室旧蔵資料をはじめとする渋沢敬三収集諸資料（渋沢コレクション）を受贈。
1963	38	渋沢敬三氏死去。 7月上記連絡会議の第4回会合で「国立公文書館設置要綱」の決定。地方史研究、協議会は第14回大会の決議に基づいて各都道府県・市町村ごとの文書館の設立を要望する「資料の保存及び散逸防止に関する要望書」を関係各機関に提出。
1968	43	10月 東京都公文書館開館
1969	44	4月1日 埼玉県立文書館開館

企画展示

渋沢敬三からの メッセージ

渋沢栄一
「青淵翁記念室」の復元

×
渋沢敬三の夢みた世界

開催日程等

平成25年9月13日(金)～
10月14日(月・祝)

休室日 日曜日・月曜日 ※10月13日(日)及び14日(月)は開室
時 間 午前10時～午後4時30分 ※入場は午後4時まで
会 場 国文学研究資料館1階展示室 入場無料
主 催 国文学研究資料館
共 催 渋沢敬三記念事業実行委員会、渋沢敬三
公益財団法人渋沢栄一記念財団、
立川市教育委員会、給田市教育委員会、
国土交通省国営昭和記念公園事務所
協 賛 立川観光協会



回覧展示

立川市指定文化財
旧石井家住宅

平成25年8月下旬オープン

月曜日(休日の場合直後の平日) 休館

午前10時～午後4時

国営昭和記念公園内

こもれびの里

入園料:大人400円

小人 80円

「立川の古民家」

～小林家住宅と石井家住宅～

平成25年9月13日(金)～9月30日(月)

全日開室

午前8時～午後10時

無料

立川市役所1階・多目的プラザ

(東京都立川市京町1156-9)



国文学研究資料館 展示室



閉室

















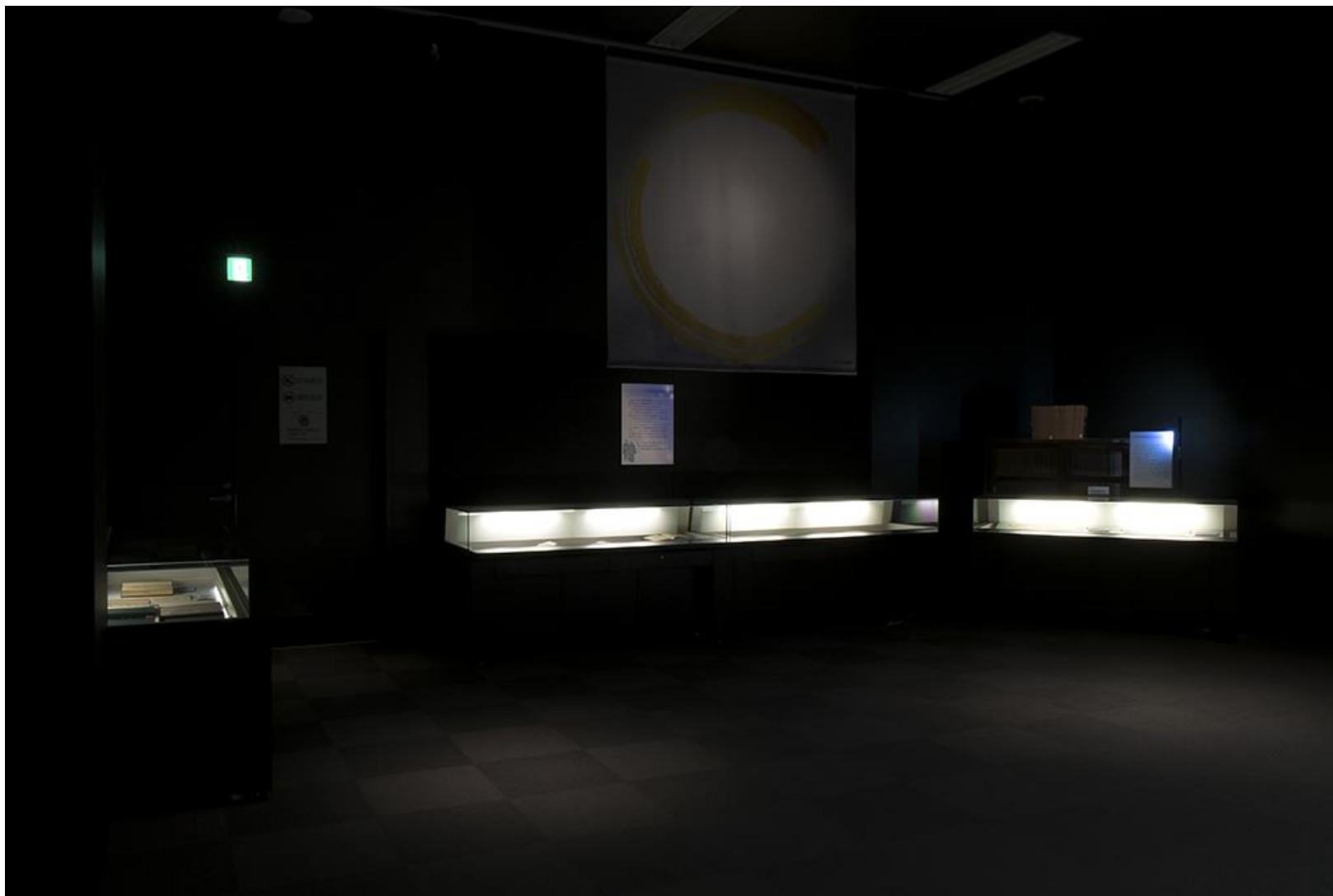


































“御所用品目録・御収蔵品目録”のすべて

日本実業史博物館で第一に衆目すべきは青淵翁記念室であり、渋沢栄一その人のすべてを表現する。1937(昭和12)年の展示室構想では次のようにまとめられている。

「青淵翁の一代を遺品、写真、絵画、図表等を成可く効果的に応用して如実に一目是れを知る一つの記念室であります。従而此の室に関する限り青淵翁一生の序次にならひ、経済以外の事項即ち教育、国際親善、労働問題、社会事業等凡てを網羅することゝなるのであります。

本室ニ於テハ青淵翁遺品写真其他ヲ用ヒ、模型絵図ジオラマ図表等ヲ併用シ青淵翁ノ伝記ヲ可及的如実ニ且ツ簡易ニ展観シー目ソノー代ノ変化性多角性一貫性ヲ明瞭ナラシムルコト」との展示方針が示された。

混迷の今、経営学「マネジメントの父」、P.F.ドラッカーは、日本資本主義の父といわれる渋沢栄一を、『論語』をより所にして「道徳と経済」の一致を唱えた『倫理家』と称した。その「渋沢栄一の生涯とその事績」

は、現在、渋沢史料館での展示を通して詳しく知ることができる。

ここでは、寄贈時の目録である『御所用品目録・御収蔵品目録』記載の品々をその順を示して展示し、ありのままの遺品とお手回りの数々をご覧いただく。





「青淵」とは — 遺愛の品々 —

青淵とは、栄一の雅号である。後に栄一自身、その名の由来について、「青淵と云ふ私の号は、私が十八歳頃、藍香先生から附けて貰った。当時私の家の下に淵があつて、その関係から私の家を淵上小屋と名付けていた。それから青淵と云ふ号が出来たのである」と語った。藍香先生とは、日本の実業家で富岡製糸場の初代場長も勤めた、栄一が学問の師として仰いだ義兄尾高惇忠であつた。

その青淵翁こと栄一の伝記資料編纂事業の発足にあたり、敬三は

「もし私に無遠慮に小さな望を云わさして下さるならば、それは^{ただ}出来上った、成功した多くの仕事の資料以外に、どんなに、不成功に終ったりまた無駄な努力がし続けられていたかということを、たといその例証が一つ一つ挙げられなくとも、そうしたものが極めて沢山あつたであろうということを考に置いて、それらの事業を深く検討戴きたい」と言い置いている。



モノづくりの「真の成功は失敗を率直にかつ科学的に究明した上で築かるべき」という視点も持ち合わせた人物であつたからこそその言葉である。







